

事業所名 あさがお(放課後等デイサービス)

## 支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

21 日

法人(事業所)理念	運動療育を通して、将来に向け、一つずつ自分でできることを増やす自立心を育てるサポートをしている。障害をお持ちのお子さまが安心して運動できる運動場所がないことが課題としてあげられることも多いが、運動療育を通じて保護者のお悩みの解決とともにお子さまの運動機能向上と社会性の育成に取り組んでいく。				
支援方針	子どもたちの困り感について、脳機能の障害に基づいた視点と5領域を網羅した視点で捉え、アセスメントを実施する。アセスメント結果を分析し、困り感の理由を分析していく。また、運動活動、学習、集団活動などを通してルールを学び、他者と関わり合うことでソーシャルスキルを習得するなど、様々な経験を積み重ねて自主性・協調性といった社会性を身につけていけるよう支援する。				
営業時間	10 時	0 分から	19 時	0 分まで	送迎実施の有無 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">あり</span> なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	睡眠・食事・排泄など基本的な生活習慣を形成し、健康的な生活リズムやADLの自立を支援する。また、子どもの心身の状態を細かく確認し、普段とは異なる状態を見つけた場合は、必要な対応を行う。その際、意思表示が困難な子どもの障害の特性や発達過程・特性などに配慮し、小さな心身の異変に気づけるように観察を行う。学齢期には、二次障害やメンタルヘルスの課題に対応し、自尊感情や自己効力感を育むことで、子どもがこれらの課題を乗り越えられるようサポートを行う。			
	運動・感覚	子どもの感覚特性に配慮し、安心して活動できる環境を整える。また、感覚、知覚、認知の視点を取り入れ、感覚入力を正確に処理できるよう、感覚遊びや識別訓練などの課題を提供する。粗大運動では、前庭覚や固有感覚を意識しながら、バランス感覚や姿勢保持を養う活動を行う。微細運動では、手指の巧緻性を高める活動を通じて、日常生活や学習に必要なスキルの向上を目指す。			
	認知・行動	物体の形や機能、空間や時間、物の大きさや色彩、数の数え方などを把握・認識し、行動の手掛かりとなるように支援する。個々の特性や認知の偏りで生じる行動上の問題を予防し、その対応方法を支援するとともに、一人ひとりの特性や偏りに配慮した上で、的確な情報処理ができるよう支援する。また、食の嗜好に偏りがある場合や強いこだわりに対する支援も行う。			
	言語コミュニケーション	視覚的・聴覚的指示理解を支援し、指示を正確に理解し行動に移す力を育てる。絵カードや各種の文字、イラストなどのコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思疎通が円滑にできるよう支援する。また、人と人との関わりの中で、他者の気持ちを理解する能力やコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。			
	人間関係社会性	ルール遊びを通じて、言語指示の理解や自己コントロールを支援し、相手の気持ちを考える機会を提供する。さらに、注意の切り替えや感情の抑制機能を高めることで、場面に応じた適切な行動が取れるよう支援する。相手の立場を理解し共感する力を育てることで、協力や対話を円滑に進める社会性の発達を促す。集団へ参加する手順やルールについて学び、遊びなどの集団活動に参加できるよう支援する。			
家族支援	家庭環境や子どもの特性を把握するため、定期的な面談や送迎時の申し送りを通じて課題を共有するとともに、日々の取り組みを支える相談援助を行い家庭全体で連携しやすいサポート体制を整える。	移行支援	子どものアセスメント結果や個別支援計画書など支援内容に関する情報をモニタリングや担当者会議、面談を通じて共有する。		
地域支援・地域連携	地域のイベントへ参加 各種関係機関(学校、相談員、児童相談所など)との連携を図る。	職員の質の向上	事業所内研修(月1回) カンファレンス 随時スタッフの悩み相談のサポート体制		
主な行事等	外出訓練、料理活動、季節のイベントを取り入れた活動(夏祭り、クリスマス会、初詣など)				